

令和2年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	ICT を活用した学修支援・評価ツールによる国際共修の促進 - 国内学生と留学生の学び合いによる真のキャンパス国際化実現 -	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	グローバル化推進センター	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	人文学部・e-Learning センター	
実施責任者(所属)	仙石 祐(グローバル化推進センター)	
取組の目標	学生の主体的な学びの促進と学びの成果の「見える化」を実現し、国際共修の教育効果を向上させる	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<ol style="list-style-type: none"> 1. オンライン海外研修のプロトタイプを3つ開発し、外部講師を招聘してプログラムの充実を図った。 2. グローバル化推進センター教員が担当する共通教育科目に COIL 型協働学習をスポット的に導入し、全学展開のためのノウハウを得た。 3. 主体的な学びの振り返りを行うための e-ポートフォリオを eALPS 上に作成し、活用した。 4. メッセージングプラットフォーム上にグループワークフィールド、教員介入のインターフェイス、インタラクションチャンネルを開設し、活用した。 5. グローバル化推進センター・国際部及び各学部の国際交流担当教職員対象の FD を企画し、国際共修の第一人者を講師として招聘した。 6. 取組みの成果を国内学会大会及び国際会議で報告した。 	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	b. おおよそ達成できた	<p>(評価理由)</p> <p>コロナ禍により国際共修で協働する留学生が学内で激減する中、オンラインで海外の大学の学生と学び合うプログラムを新たに開発し、学習成果の可視化も行って、学生の主体的な学びを促進することができた。</p> <p>(今後の展望)</p> <p>本年度の実績に基づき、国際共修に ICT を活用した海外の大学との COIL 型オンライン協働学習を本格的に導入し、全学展開を行うことにより、ウィズコロナ期の新しい海外研修プログラムを開発する。</p>